

東京地下鐵道株式會社

東京地下鐵道

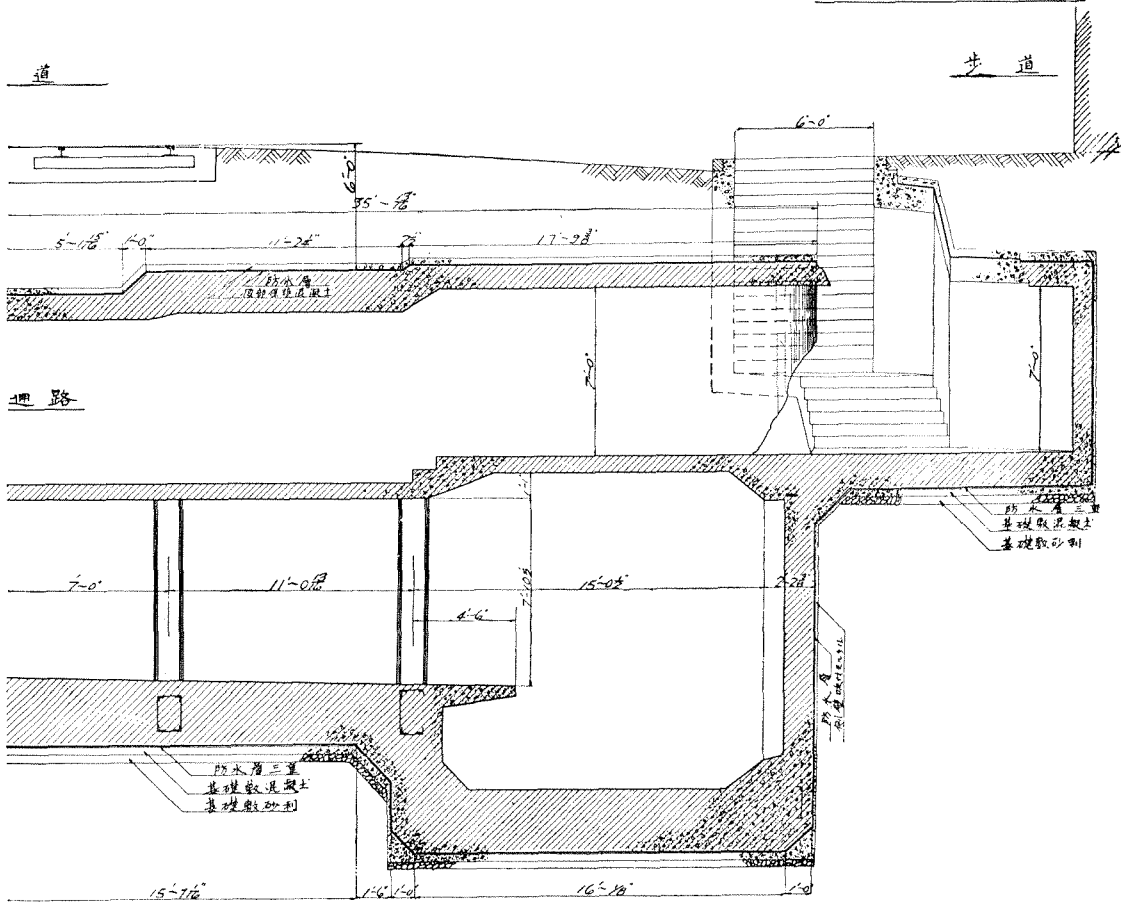
神田停留場竣工

日本最初の地下鐵道工事として其技術的成果を各方面より注視せられつゝある東京地下鐵道株式會社の工事は、第一工區の淺草上野間、第二工區の上野萬世橋間等に於て各種の工事經驗を得て、其第三工區たる萬世橋神田驛間の工事は特種的な難工事ありしに關せ

ず、工事は順調に進捗し、日本に於ける幾多の工事記録を示した。此等工事に關しては既に數回詳報した處であるが、此處に第三工區竣工後の一景觀を報道する事とした。

昨年十一月二十一日開通したる萬世橋神田驛間は、萬世橋部分を東京市に委託されて大林組の請負工事とし、其他は全部清水組の請負工事として施工された。

此工事區間の延長は 23 鎖 59 節に過ぎない

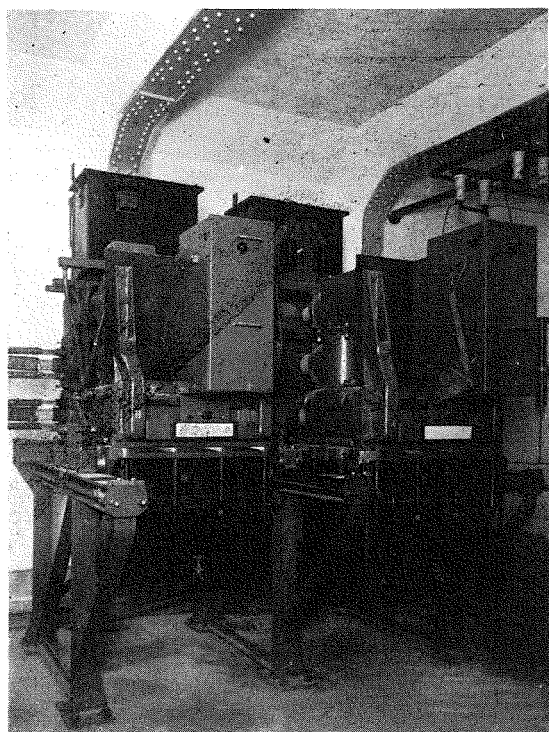
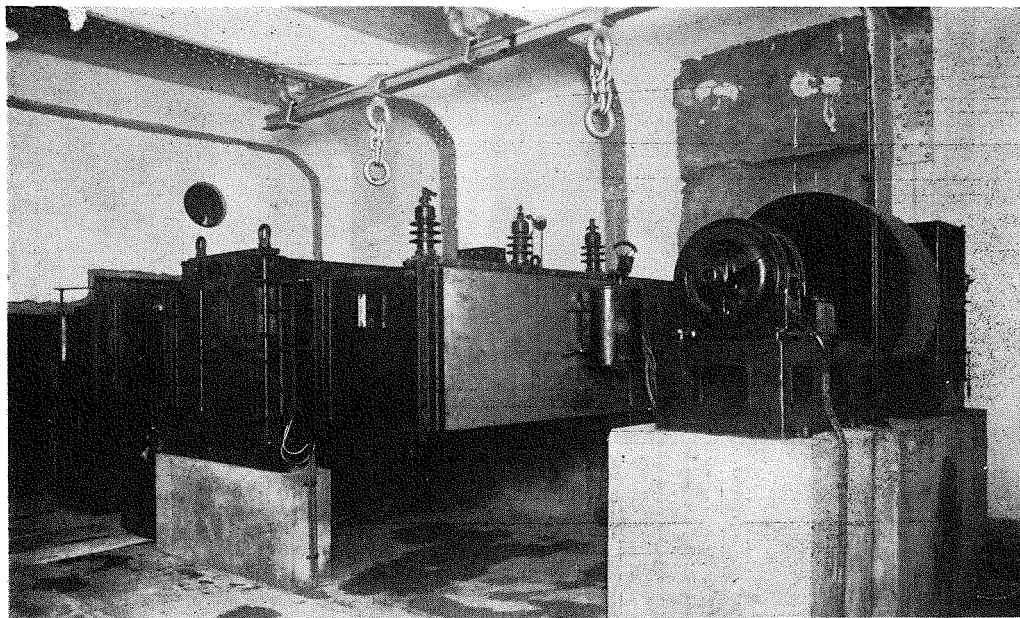


神田停留場横断面圖

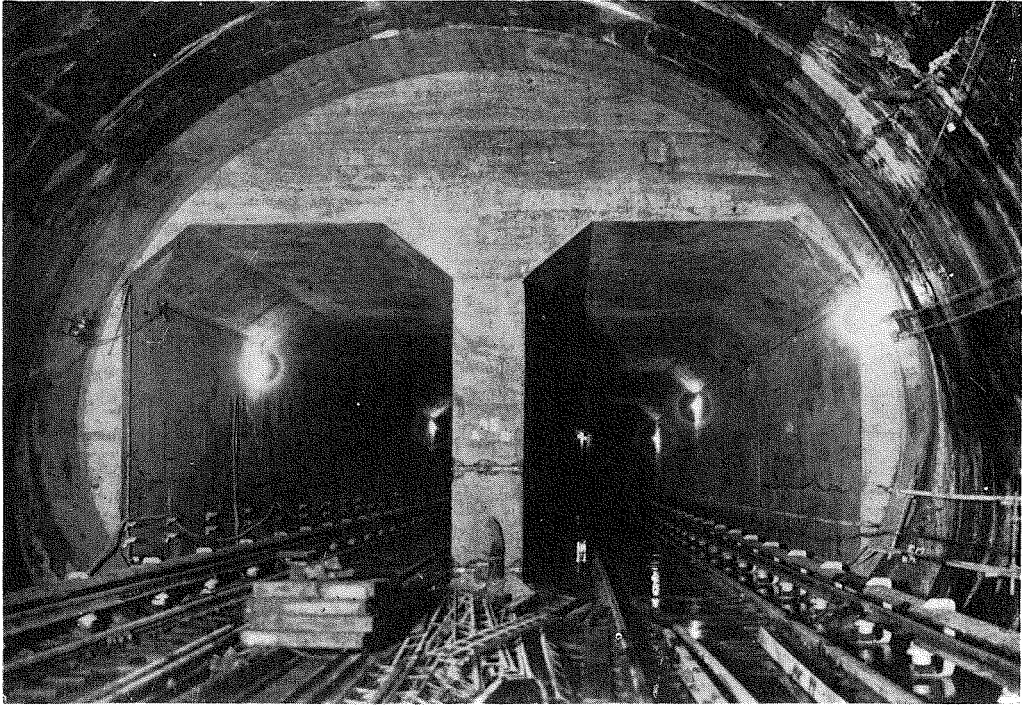
が、工事は非常に複雑して、構造物の分量から言ふと可なり大なるものがある。即ち横断面圖に於て其一部を示す如く、神田驛と須田町間は殆んど地下を全部廣潤なる一室に構造され、島式のホームあり、變電所あり、街路よりの出入階段及び、須田町の地下鐵ビルディングへの連絡等の構造が、何等地下鐵と言ふ感じがなく、廣く明るい一室の感じをなしてゐる事である。

本第三工區の竣工により、淺草から神田まで地下鐵の運輸區間、2哩60鎖となつた。本工區間の開通で、省線の連絡が非常に便になつた事と、中央線方面と淺草の東武線との連絡が非常に好都合になつた事である。

尙第四工區たる神田日本橋間は間組の請負工事として目下盛に進行中である。



東京地下鐵道會社の地下變電所
昭和六年十一月二十一日開通



特色ある東京地下鐵の神田變電所

地下鐵道原動力の心臟部分たる、地下變電所の景である。變電所の床下は嘗々と地下電車が走行してゐる。變電所の屋上は街路面となつてゐる。

變電所には電力操作を簡便にする爲め水銀整流器を使用した事と、電力系統を敏活に操作する爲め遠隔制御装置を採用した事など經濟的特色である。

前頁上圖は神田變電所内の變壓器、容量 2,200 K.V.A 電動送風冷却式である。

同下圖は特高壓用メタルクラッド式スイッチギヤの景である

河底隧道と特種工法

上掲寫眞は神田川底を横斷せる隧道にして、架線工事中の景である。本工事は東京市橋梁課に委託して施工されたもので 萬世橋の改築工事と同時に行はれた。特に日本最初の河底隧道なる故多大の注目を拂はれたもので、其工法はトラフ利用により、川水を通じ、舟運に便しながら、川底を開鑿して施工したるものである。工事の詳細に就ては工事畫報昭和4年4月號を參照され度し。

河底隧道に接續する混凝土の大アーチ部分は、萬世橋より須田町までの大隧道にして、特種隧道工法としての一新法たる多導坑式コア掘鑿法に依つたものである。本工事の詳細は工事畫報昭和6年5月號を參照され度し。